

# 勝負を重ねて 「佐渡博士」だ

佐渡の名所や文化などについて遊びながら知識を深められるご当地カードゲーム「知域王」が登場した。楽しみながら地域学習にも役立ててほしいと、開発した会社が市内の小学校に寄贈した。大会も予定されており、郷土愛を育むツールとして期待される。



「知域王」に入っている地域カードの一部。佐渡市の名所や名物を載せている

## 新潟の商社 名所や文化 織り込む

### カードゲーム 小学校に贈呈

ゲームは、新潟市の総合商社、愛宕商事（高橋克郎社長）が開発した。手札を使って、島内の名物や伝統などに関する地域カードを集めて役を作り、ポイントを集めて競い合う。対象は6歳以上で、2〜6人で遊ぶことができる。

地域カードに描かれているのは、佐渡を代表するさまざまな事象だ。道遊の割戸やたらい舟といった「歴史

史・伝統」のほか「景観・観光」「グルメ」などのテーマに分かれており、各カードには写真やイラストと簡単な説明が盛り込まれている。これらの中から決められたカードを集めると「金山セット」などの役が作れ、高ポイントになる。

役作りをするうちに各カードの関連が理解でき、地域を学べる。裏面にはQR

コードがあり、関連サイトにつながる。手札にもミニ情報が載っており、遊ぶほど知識が深まる仕組みだ。

同社がゲームを手掛けるのは初めて。若手社員を中心に半年ほどかけて開発した。佐渡の地域資源が豊富なことに着目。それら子どもたちのために生かせるかと考え、ゲーム化に挑んだ。

名所などの選定は地域の声を反映、3年後には改訂



ゲームを体験する渡辺市長（中央）＝佐渡市役所

15日の贈呈式では、高橋社長が目録とカードを渡辺龍五佐渡市長に手渡した。その後、渡辺市長らがゲームを体験し、「戦略が必要で、大人でも面白い」「これははまりそうだ」と楽しんでいった。

高橋社長は「学びと楽しみ」の面で貢献したい。子どもたちにアナログの遊びを新鮮に思ってもらえればうれしい」と述べ、渡辺市長は「地域を愛する子どもたちになつてほしい。ゲームが地域を学ぶきっかけになればいい」と応じた。

同社では児童対象のゲーム大会も計画。地区代表を集め、12月にはチャンピオン大会を開く予定だ。贈られた600セットは今月下旬にも市内の22小学校に配布、島内や新潟市などの土産物店などで販売される。価格は2500円。問い合わせは同社、025(228)4155。